

# ベニクラゲ

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館



ベニクラゲ  
*Territopus nativus* Mo  
 動物園・水族館・花クラゲ  
 産：宮島の表瀬・中瀬  
 分：日本各地

さまざまなテーマが楽しめる「の夢を託す」と題する展示がある。よつと最近、特集展示コーナーが模様替えされた。その中で「不老不死のベニクラゲに人類」

よつと最近、特集展示コーナーが模様替えされた。その中で「不老不死のベニクラゲに人類」

コクラゲやミスクラゲ、サカサクラゲなどの大型の鉢クラゲ類と異なって、直径数センチの小型種である。特に南日本産は小さい。

このためクラゲ体での寿命が短く、ふわふわと泳ぎ回らせたい。大型の北日本産ベニクラゲをゼリー漬けで展示(特集展示コーナー)

# 特集展示で見る神秘の生態

る展示は難しい。特集展示コーナーでは、傘径1センチほどの大型の北日本産ベニクラゲをゼリー漬けにして見せてもらっている。

その姿や特徴がよく分かるようにと写真パネルも展示している。パネルにある田辺清産の個体は、中央の胃袋の表面に丸い卵がたくさんできているので雌である。触手の根元には1個ずつ赤い目がある。光を感じることでできる花クラゲ類の特徴なのだ。胃袋の上にはスポンジのような構造があるのもベニクラゲならではである。

ベニクラゲで特筆すべきことは、ストレスを感じると若返って小さなイソギンチャクのようなポリプに戻って生き続けることである。つまり「子ども」を産んで死ぬべき「大人」が「子ども」に戻って人生を一からやり直すというのだ。この「生

活史逆転」も写真パネルで見せている。

若返りはわずか2日もあれば可能で、しかも何度でも繰り返しできることになっている。まさに不老不死である。ゼリー漬け標本のそばには、小学生でも分かるように解説の掲載された本が開かれているので、読んでみてほしい。

ベニクラゲについては、わが国ではすでに100年ほどの系統分類学的研究の歴史がある。再生医療が世間の注目を集めている昨今だが、その次にやってくる研究が、このベニクラゲを用いた「若返りの秘密の解明とその応用の探求」であると考えている。

昔から人類が夢見てきたことが、現実の生き物として現代も存在していたのである。

(京都大学准教授)